

|  |   |                      |                       |   |
|--|---|----------------------|-----------------------|---|
| 授業<br>科目名  | 作業療法基礎理論<br>Basic Theories in<br>Occupational Therapy | 履修年次:<br>選択：作2年      | 単位数: 1単位<br>30時間      | 担当教員名:科目責任者<br>有川 真弓 (研究室:仁戸<br>名研究棟4)、宮本礼子, 岡<br>村太郎, 松尾真輔 [作業療法<br>士] |
|  |   | 実務経験のある教員による授業科目     |                       |   |
| 〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム III 実践に必要な知識 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽   |   |                      |                       |   |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕   |   |                      |                       |   |
| <p>作業療法は応用的学問であり、周辺領域の基礎的な理論体系の上に作業療法としての理論が成り立っている。ここでは、作業療法を学ぶ上で重要な基礎的な考え方について、論理的な展開についての知識を習得する。理論が将来臨床の場で遭遇する多種多様な課題に対処する作業療法専門職としての行為を導き、結果を予測して治療にあたらせてくれる羅針盤となることが期待される。</p> |   |                      |                       |   |
| 〔授業の概要〕  |   |                      |                       |   |
| <p>本科目は、作業療法士の実務経験に基づき行われる講義と演習形式により、理論の役割と基本的構成について学び、欧米を含めて提唱されている作業療法理論について学修する。また、各理論による作業療法の対象や介入方法を検討し、具体的な問題解決法の論理的展開についての知識を習得する。</p>  |   |                      |                       |   |
| キーワード：作業療法理論，ボトムアップアプローチ，トップダウンアプローチ，作業療法パラダイム   |   |                      |                       |   |
| 〔授業計画〕   |   |                      |                       |   |
| 回数   | 日付  | テーマ                  | 内容                    | 担当  |
| 第1回  | 11/20<br>IV限  | ガイダンス，総論             | 理論の目的・構成・役割，作業療法理論の歴史 | 有川真弓  |
| 第2回  | 11/27   | 生体力学モデル              | 理論                    | 宮本礼子  |
| 第3回  | 11/27   | 同上                   | 演習                    | 宮本礼子  |
| 第4回  | 12/4  | 運動コントロールモデル/認知-知覚モデル | 理論                    | 宮本礼子  |
| 第5回  | 12/4  | 同上                   | 演習                    | 宮本礼子  |
| 第6回  | 12/11   | 感覚統合モデル              | 理論                    | 有川真弓  |
| 第7回  | 12/11   | 同上                   | 演習                    | 有川真弓  |
| 第8回  | 12/18   | 認知能力障害モデル            | 理論                    | 岡村太郎  |
| 第9回  | 12/18   | 同上                   | 演習                    | 岡村太郎  |
| 第10回   | 1/8   | 人間作業モデル              | 理論                    | 有川真弓  |
| 第11回   | 1/8   | 同上                   | 演習                    | 有川真弓  |
| 第12回   | 1/22  | カナダ作業遂行モデル           | 理論                    | 有川真弓  |
| 第13回   | 1/22  | 同上                   | 演習                    | 有川真弓  |
| 第14回   | 1/29  | 生活行為向上マネジメント         | 理論・演習                 | 松尾真輔  |
| 第15回   | 1/29  | まとめ                  | まとめ                   | 松尾真輔  |
| 履修条件   | 特になし  |                      |                       |   |
| 予習・復習  | 予習は随時提示する。復習にはレジメの見直しを行うこと。                           |                      |                       |   |
| テキスト   | 特になし  |                      |                       |   |
| 参考書・参考資料等  | 適宜紹介する  |                      |                       |   |
| 学生に対する評価   | 授業内でのまとめ (80%)、課題 (20%) により総合的に評価する。                  |                      |                       |   |

|   |  |                                       |   |                                     |
|---|--|---------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 授業科目名   | 作業療法研究法<br>Research Method of Occupational Therapy                 | 履修年次<br>必修：作3年                        | 単位数：1単位<br>コード：ROB302                                       | 担当教員名：藤田 佳男<br>[作業療法士]<br>(仁戸名研究室5) |
|   |  | 実務経験のある教員による授業科目                      |   |                                     |
| [DP]  |  |                                       |   |                                     |
| [授業の到達目標及びテーマ]<br>本授業では、作業療法の研究に必要な知識とその応用を獲得することを目標に、以下の概要で講義を進めていく  |  |                                       |   |                                     |
| [授業の概要]<br>作業療法の質的な向上に必要な研究手法について、基本的な知識を習得する。本科目は、研究デザインの計画立案することができる。学内での卒業研究及び卒後の研究活動に継続的に資する、臨床実践現場での疑問を解決する姿勢を身につけることができる。<br>上記の技術の獲得により、作業療法の発展の理解を図ることを目的とする。 |  |                                       |   |                                     |
| キーワード：研究、研究デザイン、統計、執筆要綱   |  |                                       |   |                                     |
| [授業計画] 13:00-14:30 仁戸名キャンパス+6/5 10:45-12:15(情報処理室)  |  |                                       |   |                                     |
| 回数  | 日付   | テーマ                                   | 内 容   |                                     |
| 第1回   | 5/29   | 作業療法における研究                            | 作業療法研究の概要について述べるができる。                                       |                                     |
| 第2回   | 6/5  | <u>文献検索方法について</u><br>研究方法の歴史とデザインについて | 研究の歴史と研究デザインについて述べるができる。 <u>+ (予定) 2限目図書館の利用について述べるができる</u> |                                     |
| 第3回   | 6/12   | 研究デザイン・プロトコル                          | 研究デザインについて種類と例について、述べるができる。                                 |                                     |
| 第4回   | 6/19   | 文献収集など<br>(統計の手法)                     | データ収集について(統計の手法について説明) 述べることができる。                           |                                     |
| 第5回   | 6/26   | データ収集の実際                              | データ収集実施について述べるができる。   |                                     |
| 第6回   | 7/3  | 統計とその解釈について                           | データから統計の実際について述べることができる。                                    |                                     |
| 第7回   | 7/10   | 研究の発表と成果                              | 論文の書き方と発表の仕方の概要(卒業研究の進め方)について述べるができる。                       |                                     |
| 第8回   | 7/17   | 研究プロトコルの作成<br>(演習と発表)                 | テーマの発表ができる。   |                                     |
|   | 7/25   | 予備日                                   |   |                                     |
| 履修条件  | 特になし   |                                       |   |                                     |
| 予習・復習   | t検定と $\chi^2$ 検定はできるようになっていること。論文を20以上読むこと。研究デザインを偏りなくまとめ読むことができる。 |                                       |   |                                     |
| テキスト  | 数式不要! はめ込み統計学 EZR でできる保健医療統計これだけ 医学書院                              |                                       |   |                                     |
| 参考書・参考資料等   | 標準作業療法学 作業療法研究法 医学書院   |                                       |   |                                     |
| 学生に対する評価  | 課題(80%)、授業態度(20%) により総合的に評価する。                                     |                                       |   |                                     |

※授業進度等により、時間割以外の日程で実施する場合がありますので注意すること

|   |   |                       |                               |  |
|---|---|-----------------------|-------------------------------|--|
| 授業<br>科目名   | 基礎作業学・演習<br>Occupational Science<br>and Occupational<br>Therapy | 履修年次:<br>必修：作1年       | 単位数：1単位<br>30時間<br>コード：ROB102 | 担当教員名:<br>有川 真弓 [作業療法士]<br>(研究室：仁戸名研究棟4) |
| 〔DP〕 I倫理観とプロフェッショナリズム IIコミュニケーション能力 III実践に必要な知識   |   |                       |                               |  |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕<br>作業療法実践は、治療手段として「作業を用いて行われる」ことがその特徴になっている。ここでは、主に利用される作業活動について基本的な知識を習得する。   |   |                       |                               |  |
| 〔授業の概要〕<br>本科目は、作業を「人の生活における作業活動」と「治療に用いられる作業活動」に分けて分析する。人が生活する上で生まれてから体験してきた生活行動と、治療手段として用いられる手工芸、レクリエーション等を身体的な運動・精神心理的な働き・道具や素材、環境の要因などの視点をもって分析的に理解し、演習形式にて、作業活動の理解を深める。作業療法士の実務経験に基づき講義と演習形式を実施する。 |   |                       |                               |  |
| キーワード：作業と生活、ライフストーリー、作業バランス、作業分析  |   |                       |                               |  |
| 〔授業計画〕  |   |                       |                               |  |
| 回数  | 日付  | テーマ                   | 内 容                           |  |
| 第1回   | 4/9   | 基礎作業学概論               | 作業療法における作業の定義・分類              |  |
| 第2回   | 4/9   |                       | 基礎作業学の歴史                      |  |
| 第3回   | 4/16  | 生活を構成する作業1<br>・演習     | 作業と生活・ライフサイクル                 |  |
| 第4回   | 4/16  |                       | ライフストーリー・作業歴                  |  |
| 第5回   | 4/16  |                       | ライフストーリー・作業歴                  |  |
| 第6回   | 4/23  | 生活を構成する作業2<br>・演習     | 作業バランス、国際生活機能分類               |  |
| 第7回   | 4/23  |                       | 作業バランス、国際生活機能分類               |  |
| 第8回   | 4/23  |                       | 作業バランス、国際生活機能分類               |  |
| 第9回   | 5/7   | 作業分析総論、<br>作業分析各論1・演習 | 作業分析の目的、作業分析の種類、包括的作業分析       |  |
| 第10回  | 5/7   |                       | 作業分析の目的、作業分析の種類、包括的作業分析       |  |
| 第11回  | 5/14  | 作業分析各論2・演習            | 包括的作業分析、運動分析                  |  |
| 第12回  | 5/14  |                       | 包括的作業分析、運動分析                  |  |
| 第13回  | 5/21  | 作業分析各論3・演習<br>まとめ     | 身体運動技能、認知技能、心理社会技能と作業分析       |  |
| 第14回  | 5/21  |                       | 身体運動技能、認知技能、心理社会技能と作業分析       |  |
| 第15回  | 5/28 4<br>限   |                       | まとめ                           |  |
| 履修条件  | 特になし  |                       |                               |  |
| 予習・復習   | 予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。                               |                       |                               |  |
| テキスト  | ひとと作業・作業活動 (新版)、三輪書店  |                       |                               |  |
| 参考書・参考資料等   | 作業って何だろうー作業科学入門、医歯薬出版   |                       |                               |  |
| 学生に対する評価  | 授業内での小テスト・まとめテスト (80%)、レポート課題・授業態度 (20%)<br>により総合的に評価する。        |                       |                               |  |

|   |   |                  |                   |   |
|---|---|------------------|-------------------|---|
| 授業<br>科目名   | 基礎作業学実習<br>Practice of Therapeutic<br>Occupational Activities | 履修年次:<br>必修: 作1年 | 単位数: 1単位<br>45時間  | 担当教員名: 科目責任者<br>有川 真弓 (研究室: 仁戸<br>名研究棟4)、松尾真輔、岡<br>村太郎、成田悠哉、清水大<br>輝、浦部智章 [作業療法士] |
|   |   | 実務経験のある教員による授業科目 |                   |   |
| [DP] I倫理観とプロフェッショナリズム IIコミュニケーション能力 IV健康づくりの実践  |   |                  |                   |   |
| [授業の到達目標及びテーマ]<br>作業療法に重要な各種の作業活動について、創作作業・レクリエーションなどの種目を実際に体験し、その作業工程を習得する。さらに、学生相互に構成要素を応用して作業活動を指導する過程を学ぶ。   |   |                  |                   |   |
| [授業の概要]<br>科目は、実習形式により、体験した作業活動を身につけ、その分析から、作業活動の意味や身体的・精神的な影響因子について理解を図る。また、工程の複雑な活動の体験や自己の表現等を通して作業活動が人間に与える身体的、精神的、心理的影響や効果について学習する。各種活動の基本的な技法を習得し、活動の運営方法を考察する。本科目は作業療法士の実務経験に基づき行われる。<br>-----<br>キーワード: 手工芸, レクリエーション, アクティビティ, 創作作業, 作業分析 |   |                  |                   |   |
| [授業計画]  |   |                  |                   |   |
| 回数  | 日付  | テーマ              | 内容                | 担当  |
| 第1回   | 10/1<br>4限  | オリエンテーション        | 目標の理解、分析の方法、課題の確認 | 有川真弓  |
| 第2・3回   | 10/8  | 革細工              | 企画・制作             | 岡村太郎  |
| 第4・5回   | 10/15   | 革細工              | 企画・制作             | 岡村太郎  |
| 第6・7回   | 10/22   | 園芸               | 企画・制作             | 有川真弓  |
| 第8・9回   | 10/29   | 園芸               | 企画・制作             | 有川真弓  |
| 第10・11回   | 11/5  | 籐細工              | 企画・制作             | 松尾真輔  |
| 第12・13回   | 11/12   | 籐細工              | 企画・制作             | 松尾真輔  |
| 第14・15回   | 11/19   | 創作活動             | 企画・制作             | 清水大輝  |
| 第16・17回   | 11/26   | レクリエーション         | 企画・実施             | 清水大輝  |
| 第18・19回   | 12/3  | レクリエーション         | 企画・実施             | 松尾真輔  |
| 第20・21回   | 12/10   | レクリエーション         | 企画・実施             | 成田悠哉  |
| 第22・23回   | 12/17   | 作業活動の実際          | 事例を通じた学び          | 浦部智章  |
| 履修条件  | 特になし  |                  |                   |   |
| 予習・復習   | 特になし。毎回のレポートを提出のこと  |                  |                   |   |
| テキスト  | 特になし  |                  |                   |   |
| 参考書・参考資料等   | 作業—その治療的応用 改訂第2版 協同医書出版社                                      |                  |                   |   |
| 学生に対する評価  | レポート課題 (70%)、作品提出・学習態度 (30%) を総合的に勘案して評価する。                   |                  |                   |   |

|   |  |                         |  |
|---|--|-------------------------|--|
| 授業科目名：<br>作業療法ゼミナール<br>Occupational Therapy<br>Seminar ABCDEF①②   | 履修年次：<br>選択：作2年  | 1単位15時間<br>コード：ROB202-7 | 担当教員名：<br>科目責任者 岡村 太郎(研究室：<br>仁戸名研究棟8) 藤田, 有川, 佐藤,<br>松尾, 須藤, 成田, 清水 [作業療法士] |
| 〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽  |  |                         |  |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕<br>(1) 卒業論文のテーマを見つけることができる<br>(2) テーマに則して研究計画の目標を立てるために必要な知識を習得する<br>(3) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順についての知識を習得する<br>(4) 卒業研究の発表(プレゼンテーション)についての知識を習得する         |  |                         |  |
| 〔授業の概要〕<br>作業療法に必要な論理的思考による探究心を身につけるためには多くの研究論文に触れ、様々な研究手法についての基本的知識を修得する必要がある。本科目は、自ら興味関心があるテーマに即した専門的な知識や技術についてゼミ形式により理解を深める。早期に研究に触れることで、作業療法研究法、卒業研究に向けて学修意欲の向上を図る。 |  |                         |  |
| キーワード：プロトコル作成, 研究計画, 研究テーマ  |  |                         |  |
| 〔授業計画〕  |  |                         |  |
| 回数  | テーマ・内容   |                         |  |
| 第1回①②(4/15)   | <b>第1回A-F(4/15)各担当教員、受講者全員にオリエンテーションを実施する。</b>   |                         |  |
| 第2回①(4/22)  | 作業療法ゼミナール主担当教員について   |                         |  |
| 第3回①(4/13)  | 作業療法ゼミナールA岡村太郎, 清水大輝, B藤田佳男, C有川真弓, D松尾真輔, E須藤崇行, F成田悠哉、について ①は後期前半, ②は後期後半に開催される。組み合わせる2テーマ受講可能である。 |                         |  |
| 第4回①(4/20)  | A①②, 岡村・清水研究テーマ (コード:ROB202) 「高齢者・認知症の転倒について、認知能力障害モデルについて、精神科作業療法について」など                            |                         |  |
| 第5回①(4/27)  | B①②, 藤田研究テーマ (コード:ROB203) 「高齢者・障害者の運動適性評価と指導法、有効視野、福祉用具の心理的効果」など                                     |                         |  |
| 第6回①(6/3)   | C①②, 有川研究テーマ (コード:ROB204) 「発達障害作業療法のクリニカルリーズニング、感覚統合療法の効果、特別支援教育における作業療法」など                          |                         |  |
| 第7回①(6/10)  | D①②, 松尾研究テーマ (コード:ROB205) 「作業療法教育、生活行為向上マネジメント」など  |                         |  |
| 第8回①(6/17)  | E①②, 須藤研究テーマ (コード:ROB206) 「摂食・嚥下リハビリテーション、介護保険分野の作業療法」   |                         |  |
| 第9回②(6/24)  | F①②, 成田研究テーマ (コード:ROB207) 「健康づくり、介護予防、回復期作業療法」など   |                         |  |
| 第10回②(7/1)  | *学生は、作業療法ゼミナールで興味ある教員(A, B, C, D, E, F)の研究テーマ等聴講の上、卒業論文の主担当教員を希望することができる。                            |                         |  |
| 第11回②(7/8)  |  |                         |  |
| 第12回②(7/15)   |  |                         |  |
| 第13回②(7/22)   |  |                         |  |
| 第14回②(7/24)   |  |                         |  |
| 第15回②(7/29)   | 以上のことから、各講義の中より着想し、オリジナルな発想で卒業研究に向けたテーマを見つける準備ができることが重要となる。  |                         |  |
| 履修条件  | 学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。   |                         |  |
| 予習・復習   | 受講する担当教員の適宜指示に従うこと。  |                         |  |
| テキスト  | 受講する担当教員と相談のこと。  |                         |  |
| 参考書・参考資料等   | 受講する担当教員より提示される。   |                         |  |
| 学生に対する評価  | レポート課題(50%)、学習態度(30%)、テスト(20%)により、総合的に評価する。(学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。)                           |                         |  |

|           |   |                  |            |   |
|-----------|---|------------------|------------|---|
| 授業<br>科目名 | 授業科目名：<br>作業療法評価学総論<br>Occupational Therapy<br>Evaluation；<br>General remarks | 必修：              | 1 単位 15 時間 | 担当教員名：<br>科目責任者 須藤 崇行<br>(研究室：東校舎 2)<br>清水大輝、有川真弓、松尾<br>真輔 (登壇順) [作業療法士 |
|           |   | 作業 1 年           | コード：ROP101 |   |
|           |   | 実務経験のある教員による授業科目 |            |   |

[DP] III 実践に必要な知識

〔授業の到達目標及びテーマ〕

- ・作業療法の開始から終了に至る過程において、評価の意義と目的について理解することが出来る。
- ・評価のまとめから治療目標の設定、治療プログラムに至る一連の過程について理解することが出来る。
- ・チーム医療における情報共有について説明することが出来る。
- ・身体障害、精神障害、発達障害などの作業療法の領域における具体的評価方法について、各々の専門分野における特性を理解することが出来る。

〔授業の概要〕

本科目は講義形式により、治療に先立って行われる評価について、その意義と目的を学習する。具体的には、各対象領域での使用頻度の高い評価項目や評価手法を例に取り、評価方法の選択から問題点抽出、作業療法計画への流れの中で、全体像を構築する評価過程についての理解を図る。

キーワード：記録、報告、観察、面接、検査、測定

〔授業計画〕

| 回数  | 日付    | テーマ        | 内容               | 担当   |
|-----|-------|------------|------------------|------|
| 第1回 | 11/27 | 精神障害領域の評価法 | 精神機能・精神機能障害の評価方法 | 清水大輝 |
| 第2回 | 12/4  | 作業療法評価①    | 作業療法評価とは         | 須藤崇行 |
| 第3回 | 12/11 | 作業療法評価②    | 作業療法評価の進め方       | 須藤崇行 |
| 第4回 | 12/18 | 作業療法評価③    | 再評価と作業療法の効果判定    | 須藤崇行 |
| 第5回 | 1/8   | 身体障害領域の評価法 | 運動器・運動機能の評価方法    | 松尾真輔 |
| 第6回 | 1/22  | 身体障害領域の評価法 | 運動機能以外の身体機能の評価方法 | 松尾真輔 |
| 第7回 | 1/29  | 発達障害領域の評価法 | 発達の評価方法、社会生活の評価法 | 有川真弓 |
| 第8回 | 2/5   | 作業療法評価④    | 記録・報告の意義と特徴      | 須藤崇行 |

|           |   |
|-----------|---|
| 履修条件      | 特になし。                                       |
| 予習・復習     | 予習としてテキストを熟読のこと。復習では配布資料の内容を確認すること。         |
| テキスト      | 標準作業療法学 作業療法評価学 改訂第4版 能登真一編 医歯薬出版           |
| 参考書・参考資料等 | 特に指定しない。担当者から講義の中で適宜、紹介する。                  |
| 学生に対する評価  | 定期試験 (70%)、課題 (20%)、学習態度 (10%) により総合的に評価する。 |

|   |  |                 |  |      |
|---|--|-----------------|--|------|
| 授業科目名：<br>身体作業療法評価学<br>Assessment & evaluation for physical<br>Occupational Therapy   | 必修   | 1 単位：15 時間      | 担当教員名：松尾真輔<br>〔作業療法士〕<br>(仁戸名研究室 3)<br>須藤崇行〔作業療法士〕 |      |
|   | 作業 2 年   | コード：ROP201      |  |      |
|   | 実務経験のある教員による授業科目                               |                 |  |      |
| 〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識  |  |                 |  |      |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕<br>この後に行われる予定の学内実習、並びに、臨床実習、及び、卒後の臨床実践を予想し、身体障害領域における臨床的特性を踏まえながら、客観的評価技法の実施により対象者の抱えている問題に関して、何が分かるのかについて必要とされる知識を中心に講義形式で学習する。   |  |                 |  |      |
| 〔授業の概要〕<br>身体障害領域における評価の特色について概説し、臨床において遭遇する機会の多いことが予想される①運動機能に関する検査測定、②神経機能に関する検査測定、③内臓機能のうち、呼吸機能・循環機能、栄養状態に関する検査・測定を取り上げて、その評価について知識を学ぶ。さらに近年進歩が著しく、身体障害系作業療法との関連性も深まってきた各種の画像による評価技法にも触れる。 |  |                 |  |      |
| キーワード：ボトムアップ、トップダウン、直接的評価法、数値評価、画像評価  |  |                 |  |      |
| 〔授業計画〕  |  |                 |  |      |
| 回数  | 日付   | テーマ             | 内容   | 担当   |
| 第 1 回   | 4/10   | 身体障害における評価の特色   | オリエンテーション、観察、面接等                                   | 松尾真輔 |
| 第 2 回   | 4/10   | 身体における物理量の測定    | 形態測定からの評価技法と問題点                                    | 松尾真輔 |
| 第 3 回   | 4/17   | 身体機能の検査① (領域共通) | ROM、筋力検査、知覚検査など                                    | 松尾真輔 |
| 第 4 回   | 4/17   | 身体機能の検査② (領域共通) | 反射検査、姿勢反射、筋緊張など                                    | 松尾真輔 |
| 第 5 回   | 4/24   | 身体機能評価法①        | 脳血管障害の評価   | 須藤崇行 |
| 第 6 回   | 4/24   | 身体機能評価法②        | 脊髄損傷の評価  | 須藤崇行 |
| 第 7 回   | 5/1  | 身体機能評価法③        | 関節リウマチの評価  | 須藤崇行 |
| 第 8 回   | 5/1  | 身体機能評価法④        | パーキンソン病の評価   | 須藤崇行 |
| 履修条件  | 特になし。  |                 |  |      |
| 予習・復習   | 既に 1 年生で講義した作業療法評価学総論について復習し、新規の知識の獲得・確認を行うこと。 |                 |  |      |
| テキスト  | 標準作業療法学 作業療法評価学 改訂第 4 版 能登真一編 医歯薬出版            |                 |  |      |
| 参考書・参考資料等   | 指定しない。実習の中で適宜、紹介する。                            |                 |  |      |
| 学生に対する評価  | 筆記試験 (50%)、課題 (25%)、日常の学習態度 (25%) により総合的に評価する。 |                 |  |      |

| 授業科目名：<br>身体作業療法評価学実習<br>Assessment & valuation for physical<br>Occupational Therapy Practice                |  | 履修年次：<br>2年通年 | 単位数：1/45時間<br>コード：ROP202 | 担当教員名：松尾真輔<br>須藤崇行、成田悠哉<br>科目責任者 松尾真輔<br>(仁戸名研究室6) |
|--|--|---------------|--------------------------|--|
| 〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識   |  |               |                          |  |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕   |  |               |                          |  |
| この後に行われる予定の臨床実習、及び、卒後の臨床実践に鑑み、ボトムアップの観点から身体障害領域における特徴を踏まえ、客観的な評価技法を習得できるように、必要とされる知識と手技を2時間連続の実習形式で体験的に学習する。 |  |               |                          |  |
| 〔授業の概要〕  |  |               |                          |  |
| 身体障害領域における評価の特色について概説し、①運動機能に関する検査測定、②神経機能に関する検査測定、③上肢機能に関する検査測定、を取り上げて、その評価について知識を学ぶ。実践的な評価技法にも触れる。         |  |               |                          |  |
| キーワード：標準予防策、ボトムアップ、直接的評価法、バイタルサイン、数値評価   |  |               |                          |  |
| 〔授業計画〕   |  |               |                          |  |
| 回数   | 日付   | テーマ           | 内容                       | 担当   |
| 第1回  | 5/8  | 評価に着手する前の臨床作法 | オリエンテーション、標準予防策          | 松尾   |
| 第2回  | 5/8  | 身体における物理量の測定  | バイタルサイン：測定と検査            | 須藤   |
| 第3回  | 5/15                                       | 形態測定          | 体重、身長、周径などの測定            | 須藤   |
| 第4回  | 5/15                                       | 機能測定①         | 関節可動域測定（上肢）              | 松尾   |
| 第5回  | 5/22                                       | 機能測定①         | 関節可動域測定（上肢）              | 松尾   |
| 第6回  | 5/22                                       | 機能測定②         | 関節可動域測定（下肢）              | 松尾   |
| 第7回  | 6/5  | 機能測定②         | 関節可動域測定（下肢）              | 松尾   |
| 第8回  | 6/5  | 機能測定          | 関節可動域測定（確認）              | 松尾   |
| 第9回  | 6/19                                       | 機能測定③         | 筋力測定                     | 松尾   |
| 第10回   | 6/19                                       | 機能測定④         | 徒手筋力検査（上肢）               | 松尾   |
| 第11回   | 6/26                                       | 機能測定④         | 徒手筋力検査（上肢）               | 松尾   |
| 第12回   | 6/26                                       | 機能測定⑤         | 徒手筋力検査（下肢）               | 松尾   |
| 第13回   | 7/3  | 機能測定⑤         | 徒手筋力検査（下肢）               | 松尾   |
| 第14回   | 7/3  | 機能測定          | 徒手筋力検査（確認）               | 松尾   |
| 第15回   | 7/10                                       | 機能測定⑥         | 感覚検査                     | 須藤   |
| 第16回   | 7/10                                       | 機能測定⑥         | 感覚検査                     | 須藤   |
| 第17回   | 7/17                                       | 機能測定⑦         | 反射検査・筋緊張・協調性             | 成田   |
| 第18回   | 7/17                                       | 機能測定⑦         | 反射検査・筋緊張・協調性             | 成田   |
| 第19回   | 10/9                                       | 機能測定⑧         | 上肢機能検査（STEF, MFT, etc.）  | 成田   |
| 第20回   | 10/9                                       | 機能測定⑧         | 上肢機能検査（STEF, MFT, etc.）  | 成田   |
| 第21回   | 10/23                                      | 機能測定⑨         | 実践的な評価①                  | 松尾   |
| 第22回   | 10/23                                      | 機能測定⑨         | 実践的な評価②                  | 松尾   |
| 第23回   | 11/6                                       | まとめ           | 機能測定のまとめ                 | 松尾・須藤  |
| 履修条件   | 特になし。                                      |               |                          |  |
| 予習・復習  | テーマごとに確認作業を行いながら実習を進行していく。                 |               |                          |  |
| テキスト   | 各講師より適宜、提示する。                              |               |                          |  |
| 参考書・参考資料等  | 指定しない。実習の中で適宜、紹介する。                        |               |                          |  |
| 学生に対する評価   | 実技試験（70%）、課題（20%）、日常の学習態度（10%）により総合的に評価する。 |               |                          |  |



|  |  |                |                                  |                              |
|--|--|----------------|----------------------------------|------------------------------|
| 授業科目名  | 授業科目名：<br>身体作業療法学 I<br>Occupational therapy for<br>physical function | 履修年次<br>必修：作2年 | 単位数：<br>2単位 30時間<br>コード：ROP203   | 担当教員名：須藤崇行<br>(研究室：仁戸名東校舎2F) |
| 実務経験のある教員による授業科目   |  |                |                                  |                              |
| 〔DP〕 III. 実践に必要な知識, IV. 健康づくりの実践, V. 健康づくりの環境の整備・改善  |  |                |                                  |                              |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕<br>・脳血管障害、頭部外傷、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の臨床像、評価、作業療法が理解できる。また、身体的・精神的な機能障害から対象者に起こりうる活動制限や参加制約を理解し、作業療法計画の立案に反映していくことが出来る。          |  |                |                                  |                              |
| 〔授業の概要〕<br>・作業療法の対象とする疾患の特徴を整理し、評価方法や作業療法の介入方法について説明することが出来る。特に活動や参加、さまざまな個人因子や環境因子と関連付けながら、作業療法のプログラムについて説明することが出来る。<br>・病期に応じた治療・指導・援助の違いを説明できる。 |  |                |                                  |                              |
| キーワード：中枢疾患、神経変性疾患、ADL、介入方法   |  |                |                                  |                              |
| 〔授業計画〕   |  |                |                                  |                              |
| 回数   | 日付   | テーマ            | 内 容                              | 担当                           |
| 第1回  | 10/7   | 脳血管障害1         | 脳血管障害の臨床像1                       | 須藤                           |
| 第2回  | 10/7   | 脳血管障害2         | 脳血管障害の臨床像2                       | 〃                            |
| 第3回  | 10/21  | 脳血管障害3         | 脳血管障害の評価1 (小テスト)<br>※テスト2も持参のこと。 | 〃                            |
| 第4回  | 10/21  | 脳血管障害4         | 脳血管障害の評価2                        | 〃                            |
| 第5回  | 10/28  | 脳血管障害5         | 脳血管障害の作業療法1 (小テスト)               | 〃                            |
| 第6回  | 10/28  | 脳血管障害6         | 脳血管障害の作業療法2                      | 〃                            |
| 第7回  | 11/4   | 頭部外傷           | 頭部外傷の作業療法1 (小テスト)                | 〃                            |
| 第8回  | 11/4   | 〃              | 頭部外傷の作業療法2                       | 〃                            |
| 第9回  | 11/11  | パーキンソン病        | パーキンソン病の作業療法1<br>(小テスト)          | 〃                            |
| 第10回   | 11/11  | 〃              | パーキンソン病の作業療法2                    | 〃                            |
| 第11回   | 11/18  | 脊髄小脳変性症        | 脊髄小脳変性症の作業療法1<br>(小テスト)          | 〃                            |
| 第12回   | 11/18  | 〃              | 脊髄小脳変性症の作業療法2                    | 〃                            |
| 第13回   | 11/25  | 筋萎縮性側索硬化症      | 筋萎縮性側索硬化症の作業療法1<br>(小テスト)        | 〃                            |
| 第14回   | 11/25  | 〃              | 筋萎縮性側索硬化症の作業療法2                  | 〃                            |
| 第15回   | 12/2   | まとめ            | 全体を通したまとめ                        | 〃                            |
| 履修条件   | 特になし   |                |                                  |                              |
| 予習・復習  | 講義の初めに、前回の内容について小テストを行うため復習をしておくこと。                                  |                |                                  |                              |
| テキスト   | 1) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院<br>2) 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM 基礎編          |                |                                  |                              |
| 参考書・参考資料等  | 授業の中で適宜紹介する。   |                |                                  |                              |
| 学生に対する評価   | 期末試験 (60%)、小テスト・課題 (30%)、授業態度 (10%)                                  |                |                                  |                              |

| 授業科目名：<br>身体作業療法学Ⅱ<br>Occupational therapy for<br>physical function Ⅱ  | 履修年次<br>必修：作2年  | 単位数：<br>2単位 30時<br>間<br>コード：ROP204 | 担当教員名：松尾真輔（研究室：研究棟）、高浜功丞、保田由美子、大瀬律子、奥山絵美（全員作業療法士） |     |
|--|---|------------------------------------|---|-----|
|  | 実務経験のある教員による授業科目  |                                    |   |     |
|  | 〔DP〕Ⅲ. 実践に必要な知識, Ⅳ. 健康づくりの実践, Ⅴ. 健康づくりの環境の整備・改善   |                                    |   |     |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕   |   |                                    |   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊髄損傷（頸部の脊髄障害含む）の臨床像、評価、作業療法が理解できる。</li> <li>・ 関節リウマチの臨床像、評価、作業療法が理解できる。</li> <li>・ 手外科の臨床像、評価、作業療法が理解できる。</li> <li>・ 肩周囲の障害、大腿骨頸部骨折の臨床像、評価、作業療法が理解できる。</li> <li>・ 熱傷、がんの臨床像、評価、作業療法が理解できる。</li> </ul> |   |                                    |   |     |
| 〔授業の概要〕  |   |                                    |   |     |
| <p>本科目は、講義形式により運動・感覚と知覚のうち整形外科系疾患に起因する障害、熱傷、がんの障害に対する作業療法の実際の作業療法計画の内容を中心として、活動や参加、さまざまな個人因子や環境因子と関連付けながら、作業療法で提供しているプログラムの理解を図る。（本授業はオムニバス方式により行い、作業療法士の実務経験により、脊髄損傷については松尾と高浜が、関節リウマチと手外科については保田が、脊髄障害と骨折については大瀬が、がんについては奥山が担当を行う。）</p>      |   |                                    |   |     |
| キーワード：脊髄損傷、手外科、関節リウマチ、骨折、内部障害（呼吸循環、糖尿病）  |   |                                    |   |     |
| 〔授業計画〕 ※1/7の分は12/17のV限に振り替えます。   |   |                                    |   |     |
| 回数   | 日付○限  | テーマ                                | 内容  | 担当者 |
| 第1回  | 12/2③   | 脊髄損傷1                              | オリエンテーション、脊髄損傷の臨床像                                | 松尾  |
| 第2回  | 12/2④   | 脊髄損傷2                              | 脊髄損傷の臨床像（続き）                                      | 〃   |
| 第3回  | 12/9③   | 脊髄損傷3                              | 脊髄損傷の評価   | 高浜  |
| 第4回  | 12/9④   | 脊髄損傷4                              | 脊髄損傷の作業療法   | 〃   |
| 第5回  | 12/16③  | 手外科1                               | 手外科の評価  | 保田  |
| 第6回  | 12/16④  | 手外科2                               | 手外科の臨床像、作業療法<br>（骨折、腱損傷（屈筋・伸筋）、末梢神経損傷、腕神経叢麻痺など）   | 〃   |
| 第7回  | 12/16⑤  | 手外科3                               | 手外科の作業療法の実際（発達OTと交換）                              | 〃   |
| 第8回  | 1/6③  | 熱傷                                 | 熱傷の臨床像、評価、作業療法                                    | 松尾  |
| 第9回  | 1/13③   | 関節リウマチ1                            | 関節リウマチの臨床像  | 保田  |
| 第10回   | 1/13④   | 関節リウマチ2                            | 関節リウマチの評価・作業療法                                    | 〃   |
| 第11回   | 1/20③   | 頸部の脊髄障害                            | 頸椎症性脊髄症、OPLL、脊柱管狭窄症                               | 大瀬  |
| 第12回   | 1/20④   | 肩周囲の障害に対する作業療法の基礎                  | 上腕骨近位部骨折、腱板損傷の臨床像、評価、作業療法                         | 〃   |
| 第13回   | 1/20⑤   | 高齢者に多い下肢骨折、椎体骨折                    | 大腿骨頸部骨折、椎体骨折の臨床像、評価、作業療法                          | 〃   |
| 第14回   | 1/27③   | がん1                                | がんリハビリテーション① ～予防的・回復的リハビリテーション                    | 奥山  |
| 第15回   | 1/27④   | がん2                                | がんリハビリテーション② ～維持的・緩和的リハビリテーション                    | 〃   |
| 履修条件   | 特になし  |                                    |   |     |
| 予習・復習  | 講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。  |                                    |   |     |
| テキスト   | 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院<br>※常にテキストを持参してください。   |                                    |   |     |
| 参考書・参考資料等  | 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 日本OT協会<br>ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂<br>理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版株式会社 その他、授業の中で適宜紹介する。 |                                    |   |     |
| 学生に対する評価   | 期末試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）   |                                    |   |     |